

第2回組織部会議事録

日時 令和 3年 8月25日(水)

午後 1時～午後3時

場所 リモート会議

出席者

部会長 龍谷顯孝、副部会長 深川典雄、

部員

出席 山本健善、片山昌佳、清泉文英、岩本一典、甲斐史朗、池田良久、国生泰俊

欠席 蔵山大頭、岩吉泰彦

会議

龍谷部会長より今回の検討テーマの宗門の機構改革、宗費、級階査定の見直し説明がある。また、前回の会議録の報告がある。通常宗議会総括質問に反映するため、前回の会議録の報告を踏まえ、部員各位に意見を求める。

◎過疎化、宗門離れ、収入減少（コロナ禍含め）

●今後、過疎、後継者問題、檀家減少等により収入減少で寺院維持が困難になる。

寺院数の減少より宗費を含め宗門財政に大きな減収をきたすことになる。

●管区センター、宗務所、教区の再編の課題。

●小規模寺院の宗費免除。

●小規模寺院、限界集落等のケア。

●地方の現状把握。

●ネット社会の現実の検証。

◎宗務庁機構改革

●議員数、宗務庁職員数の人員削減。

●人件費の削減。

- 各部署の縮小、痛みを伴うが公平感が必要である。
- 権限の委譲、宗務庁の権限を宗務所へ委譲。役割分担。
- 宗務所の法人化。本庁事業の受け皿。
- 財政負担の少ない宗務庁の機構改革、宗費負担の軽減化。
- 不採算事業の見直し。檀信徒会館の今後の展望を図る。早期に専門部会を立ち上げ、検証する。
- 本庁は許認可部門にする。

◎宗費。級階査定について

- 社会状況の急激な変化に伴い級階査定の期間の見直しを図る。
- 小規模寺院の宗費負担の軽減。
- 他の自治体に事業展開をしている寺院及び僧侶の把握。
- 級階査定方法の見直し。
- 級階査定に不公平感が出ないように教区毎に検証する。

◎まとめ

1. 機構改革について

今後、人口減少進んでいくことが予想される。過疎地寺院の統廃合が進み寺院数、檀家数の減少が見込まれる。宗費の納入額の減少を見据えた宗務庁の機構改革、歳出減また宗費負担軽減化を図ることが急務である。また、寺院、兼務寺院数を考え宗務所や教区の再編を検証する。（布教の活性化）

本庁事業の中に宗務所事業に委譲できるものを考える。そのためにも宗務所の法人化を進める。

2. 檀信徒会館の事業について

今後を見据え早期に専門部会を立ち上げ、様々な観点から検証する。

3. 宗費 級階査定について

機構改革を進め、歳出を抑制宗費負担減額を図る。

地域により様々な格差がある。現状を把握した級階査定が望まれる。

社会状況の急激な変化に伴い級階査定期間現在の10年よりの短縮を図る。